

来るのか？「コンドラチェフの波」

「コンドラチェフの波」はロシアの経済学者コンドラチェフが 1925 年に主張した約 50～60 年周期の景気循環論で、長期波動とも呼ばれています。この景気循環論はシュンペーターがイノベーションを要因として説明したことで、脚光をあびました。この循環の要因として、戦争の存在を挙げる説もあります。

▼イノベーションによる景気循環

シュンペーターは第 1 波の 1780・1840 年代は、紡績機、蒸気機関などの発明による産業革命、第 2 波の 1840・1890 年代は鉄道建設、鉄鋼、そして第 3 波は 1890 年代以降の電気、化学、自動車（開発期）の発達によると考えていました。

この後の第 4 波は 1950 年代以降の自動車、電子機器、IT 関係であろうし、今迎えつつある第 5 波の 2010～2020 年代以降を特徴づける技術としては環境、ロボット辺りが来るのでしょうか。

このコンドラチェフの波に関係の有りそうな考え方として「企業の寿命 30 年」、「同族企業は 3 代」「歴史は繰り返す」を考えてみました。

▼「企業の寿命は 30 年」

1983 年 9 月発行の「日経ビジネス」に「企業の寿命は 30 年」という特集が生まれ、当時のビジネス界で話題になったことがあります。ここで書かれた「企業の寿命」とは企業が繁栄を謳歌できる期間とのことでしたが、例えば、中小企業を大企業に押し上げたようなヒット（ホームラン）商品で利益が享受できる期間と考えた方が良いのかもしれない。ベンチャーから廃業までなら 60 年でしょう。

上記のイノベーションと関連して考えることもできます。

▼「同族企業は 3 代」

同族企業は 3 代で潰れると言われています。1 世代 20 年とすれば、3 世代で 60 年に相当します。おおよそ、各世代は以下の通り、表現されます。

創業者は何も無いところから、情熱と努力で事業を成功させ、財産を築く。

二代目は父親の苦勞する姿を見ながら育っているので、財産を維持する。

三代目は目の前の財産を当たり前のもので、使い果たしてしまう。

戦後、焼野原から再スタートした日本、将来ビジョンを明確に示せないでいる企業の経営者や組織のリーダーは、三代目に近い？

▼「歴史は繰り返す（戦争・事変等）」

日本の場合、1868年の明治政府成立、第二次世界大戦が1941年～1945年ですから、この間約70年、終戦から70年後と言えば今年、2015年です。昨今の世界情勢を見るに、節目・転換点を迎えているのではと思われる心配な状況が続いています。ただ、ひたすらに平和であれと祈念するばかりです。

歴史は繰り返すと言われます。政治家の方々には歴史を勉強していただきたいものです。

最後に

何となく世の中は60年程度の周期で変化するというのが正しい様に思われます。60年は過去の大事件を忘れるのに十分な時間です。終戦と言う特殊事情から、次に来るコンドラチェフの波は上述のような複数の要因が重なるため、大きな波になるかもしれません。

まだ、景気の底打ち感はありませんが、現状は歴史的な転換点・底に近いと見て、間違いないと見ています。少なくとも、そう考えて、準備しておいた方が良いに決まっています。

でも、何を準備するかですが、我々、日本人は何を準備するでもなく「台風」や「地震」を迎える様にコンドラチェフの波を迎え、嘆き悲しむ間もなく、また、誰に頼るでもなく、命じられるのでもなく、生活を取り戻そうと必死の努力を始めると思います。

幕末から現在に至るまで我が国は、黒船、終戦と「外圧」で変化してきました。この次の波は、自らの意思で、世界に通用する日本の価値を敷衍し、平和で安定した世界の構築に貢献したいものです。